

第6学年 道徳科学習指導案

令和3年11月24日（水）第5校時

第6学年1組26名

指導者 徳島 美津代

「主体的に学びに向かう児童の育成」
～自分や友達のことを知り、わかり合える活動を通して～

1 主題「かけがえのない命」

資料名「おじいちゃんとの約束」（内容項目D-生命の尊さ）

2 主題について

現代、子どもたちを取り巻く環境には、容易に死をイメージさせたり相手を傷つけたりするゲームや、特定の人を笑いものにしてしまうようなテレビ番組など、命や人間の尊厳を軽視するものが多く見られる。また、自分と他者を比較したり、自身の長所や短所に一喜一憂したりして、「生きている」ことそのものの価値に目を向けることが少なくなっている。そこで、「生きている」ことそのものが尊いことであることや、誰かと比べてではなく、「自分らしく精一杯生き抜く」ことの大切であること、そして、誰の命も皆同様に大切であるという思いを育みたいと考える。

3 児童の実態

本学級の児童は、一人一人が穏やかで、友達に対して優しく接したり、協力し合ったりすることができる児童が多い。しかし、自分の考えに自信をもって行動できる児童や、自身で決断して行動できる児童は少ない。指示を待ったり、繰り返しの「大丈夫」という声かけがないと行動に移すことができなかったりという児童も多い。友達のよさや頑張りを見付けることはできるが、自分のよさに気付いたり、自身の頑張りを自分で評価したりすることができない児童もいる。

授業中は、自分の考えをもつことはできるが、その考えに自信をもつことができず、みんなの、前での発表に対しては消極的になってしまう児童も少なくない。そこで、発表の前にグループごとの意見交換の場を設け、友達の意見を取り入れたり同じ意見を聞いて自信をもったりした上で全体の場での発表をするといった、場の工夫も行っている。本時でも、グループでの意見交換の場を取り入れていくこととする。

『リーダー・イン・ミー』の「7つの習慣」については、昨年度それぞれの意義などを学習している。今年度は、様々な活動に取り組む際に、今回はどの習慣を大切にしたいかなどについて考えることで、意識付けしていくことを心がけてはいるが、まだ児童自身が関連付けながら実践に結びつけていくことは十分ではない。

日常の生活の中で、本資料同様にゲーム感覚で「死ぬ」という言葉を口にしてしまう児童もいる。その言葉に深い思いや意図はなくても、容易に口にしてしまうことについて振り返りをし、「命」の大切さについて真剣に考えるきっかけとしたいと考える。

他の子と比較することはないが、自分自身に対して自身をもつことができなかったり、自分の頑張り

りに対しての評価が低かったりすることが多い。そこで、本資料を通して「自分らしく」「精一杯」生きることの意義や、「生き抜く」ことの大切さを考えることで、自分自身を好きになり、自分のよさを自分で認め、自信をもって生きていこうという思いを大きくしていきたいと考える。そして、『リーダー・イン・ミー』の基本の考えとなる「自分自身のリーダーになること」に気付かせ、精一杯生き抜くうえで、第7の習慣「自分を磨く」ことが大切であることに気付かせていきたい。

4 研究主題に迫るための手立て・工夫

(1) 【高学年ブロックで研究主題に迫るために、身に付けたい力】(本時で重視した力を下線とした。)

自分と向き合う力 (自己理解・自己管理能力)	自分をつくる力 (キャリア プランニング能力)	つながる力 (人間関係形成 ・社会形成能力)	先を見通す力 (課題対応能力)
① <u>自分の好きなことやよいところ、直した方がいいところを探せる児童。</u> ② やる気が起きない時でも、すすんで取り組める児童。 ③ 不得意なことや苦手なことでもすすんで取り組もうとすることができる児童。	① 将来のことを考えて、勉強できる児童。 ② <u>自分の夢をかなえるために目標をもったり、夢を叶えるための方法を考えたりできる児童。</u> ③ <u>自分の夢のために何かを頑張ることができる児童。</u>	① 友達の意見を聞くと、その人の考えや気持ちをわかろうとすることができる児童。 ② <u>相手にわかりやすいように、自分の気持ちを話すことができる児童。</u>	① わからないことや知りたいことがあったら、自分で調べたり質問したりできる児童。 ② 何かに失敗したとき、同じことが起きないようにどうすればよいか考えることができる児童。 ③ 先のことを考えたり、もっといいやり方を考えたりすることができる児童。

(2) 道徳の授業での手立て

① 『リーダー・イン・ミー』

本時の内容項目は、「生命の尊さ」である。その尊さについて考えさせる際、「一つしかないから大切」「授かった命だからみんな同様に大事」と言うことだけに終わらず、自分らしく命を全うするためにどんなことが必要で、他人との比較ではなく、自分自身が納得できる生き方をするということについても思いをもたせたいと考え、「自分のよさを大切に」「自分が自分のリーダーになる」というリーダー・イン・ミーの基本の考えを関連付けて進めていきたいと考えた。また、自身の将来を見据えて、努力をし続けていきたいという第7の習慣「自分を磨く」ということも関連付けた。しかし、教師の方から、意図的に「これはどの習慣？」といったような確認はせず、児童の中に意識付けができていれば良いと考えている。そのために、それぞれの習慣が日常のどのような言動に関するものなのかなどについても、日頃から考えることができるようにする。

② 掲示物による価値付け

「7つの習慣」の木を掲示し、日常の生活の中で習慣を意識したり、自身を振り返ったりすることができるようにする。

(3) 日常や他教科での手立て

①行事や様々な活動の際、めあて決めと振り返りの継続

行事や活動の前に、事後のなりたい自分の姿をイメージし、そのためにはどのような準備や手立てが必要かを考え、事後には自身の努力や変化・成長などについて振り返りをし、次に生かしていきたいことなども考えることを継続している。また、めあてカードは掲示することで友達のめあてを見合ったり、自分のめあてを常に意識したりすることができるようにする。

②朝の会・帰りの会で「今日のゴール」

日直が今日の目標（ゴール）を決め、発表し、帰りの会で達成度を確認することを継続している。自分だけでなく、みんなが成長し、目指すクラス像に近づくことができるようにという思いを高めることに活かしている。

③帰りの会で「キラリ見付け」

その日のクラスの頑張りを見付け、発表し合ったり、友達の頑張りのよさをカードに書いて交換し合ったりする。自分たちでよさを見付け合い伝え合い、共有し合うことを通して、友達やクラス全体に目を向け、理解を深めていく。また、メッセージを伝え合うことで、自分の長所に気付いたり、それを自身に変えてさらに頑張ろうという意欲を高めたりすることに繋げていく。

④For カード（日記）

自分が思ったこと、考えたことや今日の自分の学びなどを短文の日記に綴る。自分と向き合い、自分を振り返るきっかけとする。

⑤学級会

議題は公募し、必要な内容について学級会を開く。「なっとく会議」と名付け、多数決だけでなく、クラス全員で考えている。司会グループは輪番で担当する。

⑥グループでの意見交換

全体での発表が苦手な児童が多い。自信がなかったり、誰かが発表してくれるだろうという思いがあるようで、そのために、自分の考えを必ず誰かに伝え合うことができる場の確保が必要と考えた。また、友達の考えを参考に自分の考えを再考することができるよう、グループでの意見交換の場を設けるようにしている。

⑦学級だよりの活用

保護者向けの学級だよりではあるが、日常や行事の中での児童の姿をお便りに掲載する。児童の作品やつぶやきなどだけではなく、担任が見取った頑張りを掲載することで、認められた喜びを次への意欲に繋げたり、自分が気付かなかった友達の頑張りを知ることによって、自分もという意欲につながりていきたいと考えている。

5 本時

(1) 本時のねらい

祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、命の重みについて考えさせ、人間の死の重さや命のかけがえのなさを理解した上で、限りある命を自分らしく懸命に生きようとする心情を育てる。

(2) 展開

学習活動	主な発問と予想される反応	★指導上の留意点／◆評価
1 「命」についてのイメージ。	○これは何についてのみんなのイメージだっただろう。	★事前にとったアンケートに書かれていたものを提示する。
命の重みについて考えよう		
2 「おじいちゃんとの約束」を読み、話し合う。 ① テレビを切った後の信二の「いかり」と「なみだ」は何だったのか考える。	○信二の「いかり」と「なみだ」について考えよう。 ・今まで自分が命を軽く見ていたことに対して反省している。 ・「死んでこい」などと軽々しく言うてはいけない。	★場面ごとの信二の気持ちの変化を捉えさせる。 ★グループで意見交換した後発表させる。
② 信二はおじいさんとの約束を、どんなふうにも果たそうとしているかについて考える。	○信二は、おじいさんとの約束をどんなふうにも果たそうとしているのかを考えよう。 ・「自分の命を大切に生きること」の意味を考え続けていく。 ・自分らしく精一杯生きる。	★信二の思いが変化したのはおじいさんの死と言葉がきっかけであることに気付かせる。 ★空を見ながらつぶやいた信二の言葉に着目させる。
3 「自分らしく精一杯生きる」ことについて考える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> リーダー・イン・ミーとの関連 自分自身のリーダーになる 第7の習慣 目標をもって自分をみがく。 </div>	○「自分らしく精一杯生きる」とはどう生きることなのかを考えよう。 ・自分のよさを大切にしながら生きる。 ・自分を信じて頑張る。 ・大変なことがあっても、目標に向かって乗り越えていく。 ・日々後悔のないように。	★各自考えた後、グループ内で伝え合いをしてから全体での話し合いを取り入れる。 ★うまくまとめられない児童には、友達の考えを参考に意見をまとめるように助言する。

<p>4 「命の重み」を感じながらこれからどのように生きていきたいか考える。</p> <p>教師の説話を聞く。</p>	<p>○命を大切にしながら、これからどのように生きていきたいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことがあっても、目標に向かって努力しながら生きる。 ・自分のよさを大切にしながら生き抜きたい。 ・一つだけの命だから、満足することができるように生きたい。 ・自分の命だけでなく、他の人の命も大切に考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★具体的に考えることができるように助言する。 ◆今の自分と向き合いながら、これからの生き方について、自分なりの考えをもつことができたか。
---	--	---

<高学年分科会> 授業を見ていただく視点

- ① グループでの意見交換の場は、児童の考えを深めたり、意欲的に考えたりするために有効であったか。